（社）小郡大刀洗広域シルバー人材センター
安全就業委員会発行
会員ニュース第２号
（平成 22 年５月）

安全就業だより

５月になって除草、剪定など屋外作業の依頼がいよいよ増えてきました。多くの会員さんが動きだすと、事故の心配もその分増えます。下旬になれば、熱中症対策も必要になります。睡眠、栄養をたっぷりとり健康状態を整えたうえで就業をしてください。

安全標語を募集します

今年もふるってご応募ください！

恒例の安全標語を募集します。優秀作品は、７月２日（金）の「安全就業促進大会」において表彰、記念品を贈呈致します。安全について考えていただく機会のひとつとして、是非標語をつくってみてください。（右下の応募用紙を切り取ってご利用ください。）

応募要領はこちら

１．応募方法　（１）自作、未発表のもの
（２）内容は「安全就業」または「就業途上の交通安全」を目的とするもの
（３）一人５首まで　　事務局提出（郵送でも構いません）
＊５首以上応募された場合は、後ほど５首までに絞っていただきます。

２．締 切 日　６月１０日（木）　可能な方は**５月２６日**（水）までに

※なお、県連合会からも安全標語の募集がありましたので、５月２６日（水）までに提出された作品については選考対象とさせていただきます。日程が押して恐縮ですが、なるべくこちらの締切りに間に合うようにご提出ください。

H21年度最優秀賞　　安全作業　守る私が　守られる　　（大刀洗支所）**若宮　英治**会員

もう提出は済みましたか？『健康診断受診確認書』『自動車・バイク任意保険加入確認書』

提出期限は５月２１日（金）となっています。
全会員さんに必ず提出をお願いするものです。まだ、提出されていない方は期日までにご提出願います。確認書に関するご質問がある場合は、事務局までご連絡ください。

安全就業促進大会の日程が決まりました

平成２２年７月２日（金）
１３時３０分～
１６時３０分（予定）

於：生涯学習センター
七夕ホール

当日は原則として、就業を休んで大会に参加いただきますのでご理解ください。
昨年度は約２００名の出席がありましたが、県連合会から「もっと参加人数を増やすように」との指導がありました。『安全は全てに優先する』の自覚を全会員がもって積極的に大会にご参加ください。

Ｈ２２安全標語応募用紙

（点線で切り取ってお使いください。）

お名前　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

職群班もしくは地域班　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

⇒　両面刷りです

ヘルメット着用義

21年度全国の重篤事故発生状況より ～会員皆さんに知っていただきたいこと～

平成２１年度の全国シルバー人材センターにおける重篤事故についての統計データが発表されました。全件数は５７件、この数字は平成１６年度以降の過去６年間で平成１８年度と並び最も多くなっております。６年間の合計件数は３２４件（うち死亡２４９人）となり、この中には残念なことに当センターで発生した事故が４件も含まれております。やっと昨年度は、皆さんの努力により大きな事故がなく終ることができましたが、私達が今おかれている大変厳しい現状をしっかりと認識して、日々の就業にのぞんでください。

全国７６万４千人の会員のうち年間５７人、皆さんは多いと感じますか？それくらい…と思いますか？もしシルバー人材センターがひとつの巨大企業だとしたら、年間５０人以上が亡くなっている会社など存在しないはずです。一事業所で起きた事故は、すぐに徹底的に対策がとられ全ての事業所で厳守されます。それができなければ、社会的責任がある企業としては失格し、破綻するのです。シルバー人材センターだけが、例外的に許されるということはありません。会員の皆さんが安心して社会に貢献できる「安全・安心なシルバー人材センター」をつくることは、事務局の責務です。そのためには会員皆さん自身が安全就業基準を遵守し、事務局の安全指導に従っていただくことが必要です。

脱線しましたが、昨年度重篤事故５７件の内訳です。就業中では２８件、植木剪定、刈払、営繕、清掃作業等で安全帯・ヘルメットをつけていない転落・墜落事故が７割を占めています。就業途上（交通事故）は２９件でその８割が亡くなっております。女性会員の場合は、就業中の重篤事故はなく１００％が就業途上です。

さらに、この全国の数字のうち就業中２件、就業途上１件が福岡県で発生しました。このような状況がここ数年続き、福岡県は全国でもワーストとなっております。

（以下、県連合会の５月１１日付通達のまま掲載）

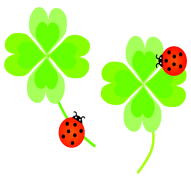
本年度こそはこの事態からどうにかして抜け出さなければなりません。

重篤事故は絶対起きないという保証はどのセンターにもありません。しかし、安全就業のルールを遵守し、事故を起こさないというしっかりした安全意識を持ったセンター、会員であれば重篤事故は避けられるはずです。人は過ちを犯すことがありますが、守らなければならないことを確実に守り、かつ安全確認をおこたらなければ事故は回避されるはずです。

“安全”“安全”と言われ続け、もうウンザリ思っている会員さんもいらっしゃるように見受けられます。いくら事例を話しても「自分は大丈夫」と多くの会員さんは他人事として感じるようです。『事故はけっして他人事ではない』ことを全ての会員がしっかりと認識をしてください。

《 安全就業推進員のつぶやき 》

昨年度の重篤事故データと一緒に過去５年間の重篤事故事例集が１冊届きました。読んでいて暗たんたる気持ちとなりました。事故状況を想像するだけで背筋がゾっとしてきます。朝、元気に出かけていった会員さんが一瞬で帰らぬ人となってしまう…ご家族や周りの方々の悲しみを思うと胸が痛くなります。ひとつひとつの事例は簡潔に２、３行程度でまとめてありますが、その後ろに隠れている本人、家族の無念、関係機関や事務局の苦労はいかばかりのものでしょうか。自分が事故で大ケガをしたら…、亡くなったら…と想定をしてみたことはありますか？安易な行動でこれだけのものを失うことになると考えたら、そう簡単に事故防止対策に手抜きはできないはずです。自分を守ることができるのは、まずは自分です。



おととし、私達が経験した不幸な事故を二度と繰返してはなりません。そのためにも事故を風化させることなく、今後の安全対策に活かしていく努力を続けることが大切なのだとあらためて感じています。事例集の内容については、今後の職群班会議などで皆さんに紹介させていただきます。

⇒　両面刷りです